

上田地区の木造二階建の建物から、女性たちのにぎやかな声が聞こえてきた。もともとは郵便局だったこの建物に本拠を置く「むつみ生活改善グループ」のおかあさんたちの笑い声だった。金山町が推進する「ふるさと産業コンビナート」計画。地域の特性を生かして、生産から加工・販売、そして消費まで、地場産業の複合化して新しい産業を起こそうというこの計画の、ひとつの典型ともいえるのがこの「むつみ生活改善グループ」だ。平成八年には第四十五回全国農業コンクールで「地域の活性化を生み出した女性グループ」として最高賞の「名誉賞」を受賞している。グループの代表である星千恵子さん（写真前列中央）に、その奮闘記を聞いた。



妖精が見えるまち、金山②

# ふるさと産業 コンビナート

むつみ生活改善グループ 代表

## 星千恵子さん

「むつみ生活改善グループ」が発足したのは昭和四十五年です。福島県のブランド化特定産品に指定されている「おふくろの味鉄砲漬」ね。これなんて県主催の「ふるさと料理活用コンクール」で優秀賞をいただいたのを商品化したものなんですよ。それから「ふるさとおふくろ便」も始まった。これは都会の会員に、四

季折々の町の特産品を送る宅配便制度ね。そんなこんなでだんだん忙しくなつて、本格的な加工所が必要になったんです。

この加工所ができたのは平成二年です。最初の一年間は準備期間でした。みんな加工機械なんて使ったことないでしょ。よその加工所に行つては使い方を教えてもらったり、たいへんだった。おもしろかったけどね。だから、正式に加工がスタートしたのは平成三年ね。いまは梅干しや漬け物を十数種類に、小豆や黒豆などの缶詰の受託生産を年間二千ヶ所くらいやっています。ソバとかゆべしとかも作つてるから、年間通してそれなりに忙しいのよ。自慢は原材料が全部この地元の産品だつてこと。ホントにこの地域の味なのよ。



友好都市・埼玉県羽生市の商工祭に参加する生産者



太郎布高原で採れた大豆を使つての味噌づくり



沼沢湖近くの畑で採れたキウイをようかんに加工